



## ○台湾研修

中正紀念堂(中華民国初代總統蔣介石の顕彰施設)⇒

新型コロナウイルス感染症の終息が未だ見えない中、昨年度に続き、残念ながら今年度も台湾研修旅行を中止とすることになりました。楽しみにしていた生徒に対して本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。



交流活動を予定していた台湾の真理大学の担当者からは、「コロナの影響で活動を中止せざるを得ないことはとても残念ですが、来年状況が改善されたら、交流の再開ができることを心から祈念しています。」というお言葉をもらっています。台湾との「絆」までが切れたわけではないことに感謝しつつ、生徒のみなさんには、台湾への関心を持ち続け、いつかは訪れて欲しいと願っています。

私は、2度ほど台湾を訪れたことがあります。1度目は今から25年ほど前で、台湾全土を1周しました。2度目は20年ほど前で、台湾の中学校で教員をしている友人を訪ねて行きました。2度とも訪れたのが、故宮博物館と中正紀念堂です。北京にある故宮博物館にも行ったことがあります。関心がなければなぜ同じ名前の博物館があり、収蔵品も違うのかもわからないと思います。旅行で訪れて歴史や現実を肌で感じたことで、知識としてではなく、実感として台湾を理解できたと思っています。蒋介石の享年にちなんだ89段の階段がある中正紀念堂。これほどの規模の個人の顕彰施設を国が建てるのは、日本では考えにくいことかもしれません。そうした、文化や歴史認識の違いを知り、考える契機とすることが海外を研修旅行先とする意義の一つです。

文化的な違いが、経済的あるいは政治的な利害と結びついた時、文化が紛争や摩擦を激化させる種となることは歴史や現実が物語っています。だからこそ、文化を理解していくことは、平和を守ることにもつながります。

昨年お亡くなりになった台湾の第4代総統の李登輝氏の自伝を読んだことがあります。うろ覚えですが、いわゆる本省人としてはじめて総統になった、日本が台湾を植民地支配していた時代に京都大学に在籍したこともある李登輝氏の中学校時代の出来事が印象に残っています。遠足で台北に行く前日の夜、父親に欲しいものがあるかと聞かれ、「百科事典」と答えたため、父親が悲しそうな顔をしたそうです。今はインターネットでいろんなことを簡単に調べることができますが、当時はそういうわけにはいきません。百科事典は相当に高価なものです。翌朝出発の見送りに姿のなかった父に対して申し訳ない気持ちになったそうです。しかし、バスに乗り込んだあと窓をたたく音が……。そこには、一晩中親戚を回って頭をさげてかき集めたしわくちゃのお金を握った父の姿があったそうです。子どもの将来のために、勉学のために、親としてなんとかかしたいと思って行動した父の姿を忘れることはできなかったと思います。ドラマ「北の国から'87 秘密」のラストシーンで、純が手にした泥のついた1万円札を思い出すのは私だけでしょうか。

親が残したい財産とは、お金でなく、教育でつく力など人には奪えないものだと思います。だから、今回中止とした台湾研修旅行の経費、次年度1年生から導入される予定の生徒一人一台端末の経費など多大な保護者負担をしてもらうことに対し、保護者の思いや願いを今一度考えないといけないと思っています。